

Olive News

オリーブ 便り

基本理念 患者さんの権利を尊重し、良質・安全な医療を提供するとともに、医学の教育・研究を推進し、医療の発展に寄与します。



新執行部挨拶

新執行部からのごあいさつ

香川大学医学部附属病院 病院長
杉元 幹史

令和7年10月1日付で、香川大学医学部附属病院(かだい病院)の執行体制が新しくなりました。医療の質の向上や災害への備え、病院の情報発信など、多くの課題にしっかり取り組むため、副病院長の担当をより明確にし、それぞれの分野を専門的に支える体制としました。

新たな副病院長は、診療・医療安全担当に消化器外科の岡野圭一先生、研究・開発担当に整形外科の石川正和先生、経営・評価担当に心臓血管外科の堀井泰浩先生、教育・地域連携・災害対策担当に麻酔科の荻野祐一先生、広報・情報発信担当に歯・顎・口腔外科の三宅実先生です。さらに、医療の質管理を看護部長の阿部慈、総務を事務部長の前川豊弘が担います。いずれのメンバーも、私が深く信頼しているスタッフです。力を合わせて、より良い病院づくりに取り組んでまいります。

いま、全国の病院が少子高齢化や医療制度の変化、コロナ後の影響など、多くの困難に直面しています。



しかし私たちは、こうした中でも地域医療の「最後の砦」としての責任を果たし、患者さんに安心していただける医療を提供し続ける決意です。

また大学病院として、医療の進歩を支える研究や、未来の医療人の育成にも力を入れてまいります。

「かだい病院に関わるすべての人を幸せにする」ことを目標に、新しい体制で職員一同、力を合わせてまいります。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。

安心と信頼の医療を届けるために

香川大学医学部附属病院 副病院長(診療・医療安全担当)

岡野 圭一

このたび、診療・医療安全担当の副病院長を拝命いたしました。医療安全は、高度で複雑な医療を担う大学病院にとって、まさにその根幹です。近年は高齢でさまざまなリスクを抱える患者さんが増え、その中で香大病院では、より安全で質の高い医療を提供することが求められています。そのためには、医療者一人ひとりが安心して意見を交わし、誇りをもって協力しあえる、心理的安全性の高い環境づくりが欠かせません。

患者さんとお家族が「病院で治療を受けてよかった」と感じていただけるよう、全職員とともに力を尽くしてまいります。皆さまよろしくお願いいたします。



「不均衡」をあえてつくる

香川大学医学部附属病院 副院長(研究・開発担当) 石川 正和

このたび、令和7年10月より医学部附属病院の副院長(研究・開発担当)を拝命いたしました、整形外科の石川正和と申します。赴任4年目の私にこの役割をお任せいただいたのは、あえて新たな要素を組織に取り入れるという杉元病院長の挑戦だと感じています。「均衡」は理想的ですが、成長にはあえて「不均衡」をつくることも必要です。創意工夫と効率化、新たな挑戦を大切に、患者さん、職員、学生から愛される病院づくりに尽力してまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



教育→地域連携→災害医療

香川大学医学部附属病院 副病院長(教育・地域連携・災害対策担当) 荻野 祐一

教育・地域連携・災害医療はバラバラではなく、ひと続きに繋がっています。香川大学医学部附属病院は県下唯一の医師養成機関として、香川で育ち、香川から世界へ羽ばたく医師の養成を目指しています。当院は元々、懇切丁寧な教育体制と指導人材に恵まれ、論文執筆を含む専門医育成を一貫して行えるのが強みです。この強みを活かして、次世代を担う人材育成と地域連携の再編、災害対応力の強化へと繋げるよう尽力して参ります。



新執行部挨拶

香川大学医学部附属病院 副病院長(広報・情報発信担当) 三宅 実

このたび、香川大学医学部附属病院副病院長(広報・情報発信担当)を拝命いたしました。身に余る重責に身の引き締まる思いです。これまで培ってきた経験を活かし、地域医療のさらなる発展と本院の信頼向上に微力ながら尽力してまいります。

近年、医療を取り巻く環境は大きく変化し、大学病院にも高い説明責任と情報発信力が求められています。正確で分かりやすい情報を社会に届けることは、安心と信頼の医療を支える重要な基盤です。私は、患者さんや地域の皆さまに寄り添いながら、医療従事者の努力や研究成果、教育活動を積極的に発信し、本院の理念である「地域に開かれた大学病院」の実現を目指してまいります。

今後とも、皆様のご理解とご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。



1 票差の奇跡!

くーちゃん、病院ゆるキャラ総選挙準決勝で堂々の1位通過



香川大学医学部附属病院キャラクターくーちゃんが「病院ゆるキャラ総選挙」の予選を通過し、9月17日にオンラインで行われた準決勝(西日本Aブロック)に出場しました。

当日は実績のあるキャラクターたちが、それぞれの魅力や想いを披露する中、くーちゃんの特長「大きな目と翼、心電図のような口をもち、病気や悩みで困っている人々を発見し、どこにでもすぐに飛んで駆けつけ、ふわふわの羽毛で包み込んで寄り添い、癒やしてくれる愛らしい存在」であることを伝えました。

結果発表では、審査員6名による評価は、完成度の高い人気キャラクターに20票差をつけられ劣勢でしたが、その後一般の皆さまの投票集計結果が加わると状況は一変し「1票差」でくーちゃんが1位を勝ち取り、首位通過を果たしました! 初挑戦で大接戦を制することができたのも、応援してくださった皆さま一人ひとりの気持ちが大きな力となったことの証明です。

11月16日の決勝大会では、惜しくも4位でファイナルラウンドに進むことはできませんでしたが、病院や大学の職員が心を1つにし、くーちゃんと共に笑顔で活動できたことが何よりの成果です。

医療は、安心できる場所であることが大切です。くーちゃんはその安心感を象徴する存在として、病院と地域をつなぎ、人と人との絆を深めてくれます。

香川大学医学部附属病院は、これからも「安心できる医療」「わかりやすい医療」を大切に、地域に寄り添いながら教育・研究・診療を進めてまいります。これからもくーちゃんと当院へのあたたかい応援を、どうぞよろしくお願いいたします。

空色ポストを開催しました

香川大学医学部 医療支援課

11月4日から7日までの4日間、香川大学医学部附属病院の中庭で、香川大学創造工学部 造形・メディアデザインコース主催によるホスピタルアート「空色ポスト」を開催しました。

この企画は、患者さんやご家族、医療従事者などが日々の想いを手紙に託し、風船につけて秋空へと放つことで、心のつながりを感じ合うホスピタルアートです。澄みわたる空の下、来院者の皆さんや病院の人気者くーちゃんも参加し、穏やかなひとときとなりました。

今回は新たな試みとして、風船に近づくと音が聞こえる仕掛けを加え、これまでに寄せられた700通を超える手紙をテキストマイニングで分析し、その言葉の傾向をもとに構成したアーカイブ展示も行いました。



「令和7年度(第10回) お月見コンサート」を開催しました

香川大学医学部 医療支援課

9月30日18時30分より、医学部附属病院1階玄関ホールにおいて、入院患者さんを対象とした秋の院内イベント「お月見コンサート」を開催しました。

今回は、香川大学医学部管弦楽団の学生の皆さんをはじめ、当院キャラクターくーちゃんや職員が出演し、入院患者さんの一日も早い回復を願って、音楽と笑顔に包まれたひとときをお届けしました。患者さんに季節を感じていただける、温かい雰囲気のコンサートとなりました。



2025年度の医師臨床研修マッチング結果について

香川大学医学部附属病院 卒後臨床研修センター センター長 安田 真之

令和8年度から医師になる医学科生らが臨床研修病院を選ぶ「2025年度マッチング結果」が、10月23日に公表されました。

本院のマッチング数は、MANDEGANプログラム(20名)および小児科プログラム(1名)、あわせて計21名でした。

本院への想い・期待を抱いてくれた皆さんが、来春より本院で研修開始予定であることを大変嬉しく思います。

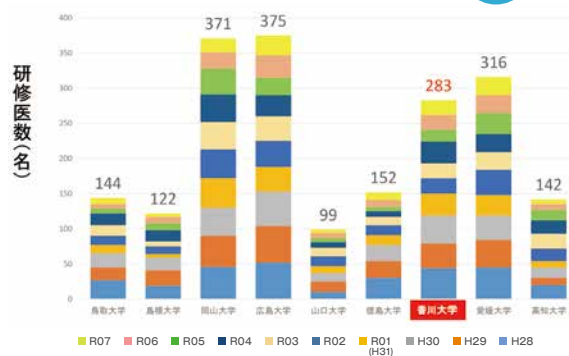
令和2年度から、卒後臨床研修制度が大幅に変更となりました。必修診療科での研修期間が増え、新たに外来診療・チーム医療の実践など必修項目も設定されています。また、医師だけでなく看護師等の多職種による研修医評価も必要となりました。院内スタッフの皆様には、研修医指導へのご理解とご協力をお願いいたします。

本年度のマッチング結果は、地方国立大学病院では、研修医確保が大変厳しい状況に陥っており、地域医療を担う医師教育、育成に多大な影響を及ぼすことが危惧されております。今後、多くの医学生からキャリアアップのファーストステップとして本院が選択されるために、医療の社会的ニーズの変化に対応した研修を提供することが、さらに重要となると考えています。

医学部教育センター、臨床教育研修支援部が一気通貫体制で医師養成に臨むだけでなく、病院全体のムーブメントとして院内スタッフの皆様にも研修医教育に関わっていただき、研修医が医師としてのキャリアアップに夢を持てる大学病院でありつづけることが大切と考えます。引き続き研修医育成にお力添えのほどよろしくお願い申し上げます。

中国四国9国立大学病院
医師臨床研修マッチング者数の累計(過去10年間)

大学別



解剖体慰霊祭の開催について

香川大学医学部 総務課総務係

令和7年10月21日13時30分より、医学部体育館において、解剖体慰霊祭を開催いたしました。

献灯・献花・黙とうの後、上田学長、西山医学部長、香川県知事、板野白菊会理事長、医学部学生代表による追悼の辞が述べられました。

最後に、遺族や学生等参列者約400名が献花を行い、医学教育・研究に協力され、医学の向上・発展に貢献された2,491柱の御霊に哀悼の意を表し、故人のご冥福を祈りました。



ケーブルTVで放送中



香川大学医学部附属病院 医療セミナー

詳しくはこちら



12月のテーマ

R8.1月のテーマ

R8.2月のテーマ

イキイキ生きるための人生会議

月経にまつわる症状とうまく付き合うために

がんゲノム医療について

編集委員会(50音順)

(2025年9月現在)

岡内(外来)、岡野(副病院長)、尾崎(医事)、寒川(総務)、小坂(薬剤)、塩田(経営企画)、多田(検査)、田中(病棟)、筒井(医療支援)、保科(管理)、森(看護)、門田(放射線)、横井(医療情報)〔委員長 門脇病院長〕